

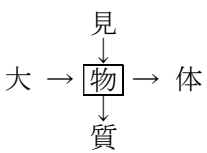
【一】従来の二大問にプラスして独立した国語基礎力を問う問題を20点分出題する。形式はあえて固定せず、いろいろな形式で問いたい。従来の【一】、【二】は、【二】、【三】として出題する。なお【二】、【三】でも必要に応じて従来通り書き取りなど基礎知識を問う問題も出題する。以下、問一漢字の問題、問二語彙知識の問題、問三文法問題として例を示す。あくまで例であり、実際にはさまざまな出題形式を工夫したい。】

問一 次の（ ）に適切な漢字一字を入れなさい。

- | | | | | | | | |
|-----|-----|----|------|-----|-----|--|------|
| 対義語 | ①平和 | ↑↓ | (戦)争 | 類義語 | ⑥欠点 | | (短)所 |
| | ②古傷 | ↑↓ | (生)傷 | | ⑦発行 | | 発(刊) |
| | ③発車 | ↑↓ | (停)車 | | ⑧絶賛 | | 激(賞) |
| | ④束縛 | ↑↓ | (解)放 | | ⑨計略 | | (策)略 |
| | ⑤序幕 | ↑↓ | (終)幕 | | ⑩地形 | | 地(勢) |

＊【ストレートに書き取りを要求したり、読みを問うこともある。また次のような空欄補充もありうる。】

問 □に適する漢字を示しなさい。



問二 次の（ ）に動植物を入れてことわざを完成しなさい。

- ⑪ (犬) も歩けば棒に当たる
- ⑫ (猫) に小判
- ⑬ (猿) も木から落ちる
- ⑭ (うど) の大木
- ⑮ 木を(竹)に接ぐ

＊【29年度入試の【一】の問四や【二】の問七、八のような出題も考えられる。】

【一】問四 次の慣用句を使って、それぞれ短文を作りなさい。

- 1 手がかかる
- 2 手に余る
- 3 手をこまねく

【二】問七 次の□に体の一部を表す漢字を入れて、それぞれ四字熟語を完成させなさい。

- 1 馬耳東風
- 2 抱腹絶倒
- 3 徹頭徹尾

問八 「流暢」は「言葉がすらすらと出てよどみないこと」という意味ですが、それと同じ意味のことわざ・慣用句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 口も八丁手も八丁
- イ 歯に衣を着せない
- ウ 立て板に水
- エ 片棒をかつぐ
- オ かつぱの川流れ

問三 次の―線部と同じ意味、用法のものをそれぞれ後のア・エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

⑩父と出かける

ア 「おい」と呼んだ。

イ 友だちと遊ぶ。

ウ 買ってもらえるといいな。

エ さっさとかたづけける。

⑨子供の足でも五分あれば行ける。

ア 何度読んでも分らない。

イ 休日でも店は開けます。

ウ 見た目は同じでも中身は違う。

エ これだけでも持っていきなさい。

⑪花が咲いた。

ア 秋になったがまだ暑い。

イ 明日晴ればいいが。

ウ 姉は走るのが速い。

エ 桜もいいが梅もいい。

⑩いたずらをしてしかられる。

ウ 先生に名前を呼ばれる。

イ あのころが思い出される。

ウ 先生が同窓会に出席される。

エ 小学生でも答えられる。

⑫先進のテクノロジーだ。

ア 口ぶりは大人のようだ。

イ 今にも雨が降りそうだ。

ウ 姉は社交的だ。

エ 部屋は静かだ。

＊【文法問題としては、敬語なども問うこともある。】

問 ―線部をふさわしい敬語表現に改めなさい。

お客様がおいしそくに食べた。↓めし上がった